

生涯音楽学習の活動◆みんなの音楽・みんなで音楽

ゆめたろうプラザの取り組み

生涯学習を豊かにする武豊町民会館

武豊町民会館館長
竹本 義明

生涯学習

生涯学習とは、学校教育だけでなく、学習者の自由な意志に基づき、それぞれにあった方法で生涯にわたって学習していくこととされている。

日本で生涯学習について議論が始まったのは一九七〇年代に入ってから、社会教育の一環としてその必要性が言われてからである。

一九八〇年代に入り、生涯学習の意義や目指す方向が議論され、一九九〇年代になると、国の施策として、本格的に生涯学習の場や環境が整備されるようになった。

一九九〇年に生涯学習振興法が

法制化されて、学校教育や社会教育に限らず、スポーツ活動や文化活動、趣味の活動など、様々な機会を通して行われる自発的な活動が行なわれ、さらに、少子高齢化による急激な社会環境の変化で、知識や技術の習得が求められるようになった。

生涯学習の実態

従来から図書館、博物館、そして美術館が社会教育施設として、生涯学習の役割を担ってきたと考えられる。

一方、最も設置数の多い公民館は市町村などの一定地域内の住民のため、実際の生活に即する教育、

学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的に、その役割を果たしている。

最近では、地域公共ホールの建設において、鑑賞事業の場としての役割に加え、文化活動拠点としての役割を持たせるため、生涯学習施設を併設するホールが増加している。

自治体が設置する生涯学習センター、民間のカルチャーセンターでの講座、高等教育機関である大学が独自に、あるいは地域の自治体と連携した生涯学習講座が実施されている。

その他、活動の場が多岐にわたり、生涯学習という言葉が年齢を問わず、自由に学ぶ機会と認識されるようになっていく。

急激な社会環境の変化の中、「物の豊かさから心の豊かさ」が求められる、ますます生涯学習を切望する機会が多くなっている。

音楽分野の生涯学習

生涯学習の実施において、都市の規模や実施場所、年齢や性別によりその展開に違いがある。小都市では公民館、大都市では民間のカルチャーセンターに受講者が集中しているようである。

センター利用者は女性が多く、男性は自宅で学習する割合が多いようである。全体に人気があるのは健康・スポーツ系の講座で、高齢化社会を反映している。

趣味的な講座は幅広く多様な展



▲武豊町民会館で実施しているドラム体験教室



▲武豊春の音楽祭開催期間中に設置するオープンスペースでのコンサート

開がされ、パソコン・インターネット関係は、実用的な講座として人気がある。その他、家庭生活に役立つ技能や教養、職業上必要な知識・技能等について幅広く展開されている。

趣味的な講座の中で芸術分野は大変人気があり、創造的な取り組みに魅力を感じているからだと考えられる。

音楽分野では、講座と言っても自らが参加し実践する要素が多

く、数回の講座に参加し修了時に発表を行なうこととなっている。

練習の場としての地域公共ホール

公立文化施設において、地域における創造活動の重要性が認識され、そのための取り組みが盛んになっている。それは、新しく建設された施設が生涯学習や各種講座に対応する設備が充実し、地域の多様な要望に応える必要性が求められるようになったからである。

地域公共ホールの実態を見てみると、ホールに併設された練習室やスタジオの稼働率が極めて高くなっている。

最近では、地域の演奏団体や創造団体が地域公共ホールを利用する場合に、使用規定を超える要望があり、今後施設側が弾力的な運用を検討する必要性に迫られるだろう。

武豊町民会館(ゆめたろうプラザ)

武豊町は愛知県知多半島中央部に位置し、港と鉄道に古い歴史を

持っている。臨海部の工業地域、南部の田園・丘陵地域、北部に商業住宅地域を要し、東西南北五キロメートル四方で、人口四万二千人の小さな町である。温和な気候で味噌、たまりなど伝統ある産業で発達してきた。近年は、近代的農業の他、化学、ガラス、薬品等の大規模な工場・研究所が立地している。

二〇〇四年に開館した武豊町民会館は、一九九七年に住民から芸術・文化の創造と発表の場が必要と言う強い要望があり、住民参加の施設づくりを目指して準備が始められた経緯がある。

一九九八年に町が策定した第四次武豊町総合計画に時代の流れを展望し「ハード中心からハート中心のまちづくり」へ軌道修正を図る中で計画された。

二〇〇〇年には、住民と専門員による施設運営委員会を組織し、住民参加を中心に計画が練られ、基本構想・基本設計・施設運営計画を策定し、住民・企業・行政が

一体となったパートナーシップによる「文化創造の拠点」としての活用が期待された。

事業の分類と運営

本館は、芸術鑑賞、人材育成、文化発信、そして交流&住民参加の四つを柱として、年間四〇事業以内の実施を目指し事業を行ってきた。

芸術鑑賞事業では、有料の優れた芸術鑑賞と無料又は低料金の体験・参加型事業を実施し、人材育成事業は、有料の教室事業の他、教養系の芸術と科学のハイモニー事業、スタッフ養成講座を行ってきた。

本館の事業は、町教育委員会による主催事業、特定非営利活動法人(NPOたけとよ)への委託事業、そして実行委員会による事業により行われている。

文化協会等委託事業の町民文化祭は、町民会館が中央公民館と連携して実施している。

その他、ゆめたろうプラザで開